



AIYES 通信

横浜スペイン交流協会会報

1996年10月1日発行 第9号 発行・横浜スペイン交流協会事務局

協会の連絡所を新設＝委員会活動(グループ活動)の拠点

9月の幹事会で、かながわ県民活動サポートセンター内に、横浜スペイン交流協会の連絡所を置くことになりました。

県民活動サポートセンター9階に、協会専用の『レターケース No.184』を設け、協会宛の郵便、FAXなどを受取り保管でき、誰でも取り出しができるので、委員会活動の連絡に使用すると便利です。また、棚に事務用品箱を置き、PPC用紙や封筒などを用意しておきますので、委員の方々はご利用ください。

9階と10階には、打ち合わせに利用できるゆったりしたボランティアサロンがあります。

◎ 郵便物宛先 〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター内

神奈川県民活動サポートセンター

レターケース No.184 横浜スペイン交流協会

☆ スペインサロンのご案内 ☆

第二回スペインサロンは、10月12日(土) 13:30~15:00 横浜ジャストビル8階3号室で開催します。講師は最近、自叙伝『香取希代子85歳、しなやかにフラメンコ』を出版された日本フラメンコ協会名誉会長、香取希代子先生です。

第三回スペインサロンは、11月16日(土) 13:00~15:00 かながわ県民センター7階711号室で開催。講師はスペイン現代史の研究を続けている法政大学教授川成洋(かわなり よう)先生です。あたかも今年はスペイン内戦勃発から60年目にあたります。そこで演題は『スペインの内戦の今日性』となっています。

川成先生の主要著書には『青春のスペイン - ケンブリッジ大学の義勇兵たち』中公新書、『スペイン戦争 - ジャック白井と国際旅団』朝日選書、『幻のオリンピック』筑摩書房などがあります。

☆ 委員会活動(グループ活動)に自主参加を ☆

協会は現在のところ8委員会で活動を始めています。

① さくら交流(委) 主査 下山会長 ② 会員交流イベント(委) 主査 加瀬隆康 ③ スペインサロン(委)

主査 石川美知子 ④ スペイン語講座(委) 主査 高柳治子 ⑤ テルトゥリア(委) 主査 松本益代 ⑥ 写真展(委) 主査 朝倉 郁 ⑦ 会報編集(委) 主査 飯塚 勲 ⑧ 中期事業検討(委) 主査 事務局
会員はこれらの委員会活動のいずれかに参加することで交流を深める機会を得ることができます。黙し行動しない会員の方々は、ぜひとも入会の初心に帰りたいのかの委員会にご参加をお願いします。

さくら交流基金募集 年末ディナーコンサートのご案内

今年の年末パーティは元新日本フィルのメンバーによるディナーコンサートを企画いたしました。

詳細は別途お知らせ致しますが、一般の方の参加も可能ですので、ぜひお誘い合わせの上お越し下さい。

日 時	96年12月7日 18時~21時
会 場	新横浜国際ホテル
会 費	会員 12,000円 一般 15,000円
演奏曲目	ロドリゴ「アランフェス協奏曲」他
申込・問合せ	朝倉しとみ 宮川美句子 石川美知子

スペイン熟年二人旅

< 第1回 >

渡邊 昭夫

スペインの旅1、2の3

今年の春3月、夫婦2人でスペインへ1、2の3とばかりに旅をしました。1は1か月、2は2人旅、3は3地方(Málaga・Sevilla・Madrid)を意味します。

旅は Málaga 17泊、Sevilla 4泊、Madrid 5泊で、内容は2週間の語学研修、モロッコ旅行などの小旅行、セマナサンタ見物、観光、家庭訪問などで、結果的には非常に楽しい旅となりました。一般観光地のことはガイドブックに譲るとして、熟年コース(El Curso para La Tercera Edad)で語学研修した体験と気ままな2人旅を主にご紹介し、みなさんのご参考に供したいと思います。

きっかけは横浜戸塚のスペイン語教室で見かけた、東京の旅行社・太陽海外航空(株)の一枚のパフレット「熟年者のためのスペイン語研修旅行」です。夫婦共々団体での海外ツアーに参加することは多いのですが、今回は言葉もよく判らない2人が、スペインへ初旅行(señora 美枝子は2回目)し、すべてスペイン語での語学研修に2人で参加するなどチャレンジの旅です。しかし、「ものにであう楽しさ、人に出会ううれしさ」(画家の渡辺俊明さんの画にある言葉で、旅の要諦と思っています)の誘惑には勝てません。とにかく行ってみましょう、行ける時に。

いざ、Málagaへ

3/16(土)IBEREA 航空でモスクワ経由の直行便で Madrid へ、ここで空港近くのホテルで1泊。翌日の便で Málaga 空港へ、そこからタクシーで約2000pts.(1Pts.=約0.91円)で宿泊先の Club Hispánico(語学校 MALACA INSTITUTO に隣接する宿泊施設)に到着。3/17(日)の昼頃でした。受付の Srta. Isabel から Bien venidos と云われたときには、さすがにホッとしました。青い空を背景に、燦々たる太陽の下、あのスペインの代表的な茶色の屋根と白い壁の家並みが、暖かい空気の中でひととき美しく思えました。MALACA INSTITUTO は Costa del Sol の中心にある Málaga 市の郊外にあります。市の中心からは東の方にタクシーで約10分位=700pts.、バスならば15分位=115pts.と徒歩(急な坂道)5分位のところです。生徒数は150人位で、日本人も常時数人は勉強していますが、ドイツの señoritas が目立ちます。

さあ、熟年コースへ

早速翌日の月曜日から授業が始まります。普通は初めクラス分けのテストがあり、市内観光をしている間にクラス分けがされますが、今回の熟年コースは、われわれ2人の他に2人で計4人のスタートとなりました。Miaさんはゴルフ好きなオランダの女性ジャーナリスト。Evaさんはおしゃべり好きなベルギーの女性通訳。二人共スペイン語を話すのはまだ苦手ですが、しっかりと文をつくりまします。2週目から加わった Mihail おじさんは船乗りで、実戦的スペイン語はよくしゃべりますが、文法が苦手なため勉強するための参加です。Somos amigos です。授業はすべてスペイン語、1日3時間(8:30~11:30)で2週間=10日間、合計30時間で1時間ごとに、先生が交代します。カリキュラムがしっかりしているので、内容は一貫しています。12人の先生と接したことになります。それぞれ個性があり勉強になります。

カリキュラムですが、そのつどコピーを渡されますが、1日目:挨拶の仕方、発音と Bar での会話、数字読み方など。2日目:ser 動詞と時間の表現……のように進められ、終わりの頃には自分の家の説明をさせられました。時々宿題(Deberes)が出ましたが、2週間ですべてをマスターできるわけではありませので、体験入学プラスアルファと割り切っています。

生徒が4人ですからキメ細かい勉強ができますが、すぐ順番が回ってきますので緊張します。久し振りの体験です。小さいながら図書室もあり教材も整備されています。レベルの高い方は若い人達と一緒に上級コースに入られるほうが良いと思います。



クラスの講師、仲間とともに

楽しいレクリエーション

熟年コースのなかには、午前の授業と別に午後に時々レクリエーションが組まれていて、こちらが結構勉強にも楽しみにもなりました。Mercado の見学、有名な Bar(Antigua Casa de GUARDIA)での過ごし方、Churros の食べ方、博物館や近くの植物園の見学等生活に密着した体験レクの他、Paella の作り方等をレク専門の Adbel さんと、空手の強い Argentina 出身の Dago さんが世話をしてくれます。

このほか若い人達と一緒に小旅行が催されます。日帰りでは、白い村で有名な「Frigiliana と Nerja コース」、これも有名な「Granada コース」等があります。金曜日の午後に出発する「モロッコ2泊3日」のツアーは、モロッコの北部だけですが、また違った異国情緒が味わえます。Málaga は多くの観光地の中心にあるので、地の利が魅力です。

学校主催のこれらの小旅行には積極的に参加しましたが、Granada は日帰りでは勿体ないと2人で1泊旅行です。市内から「Alsina Gaells」社の2台連結高速バスで1時間50分(1135pts.)です。楽しみました。やはり白い村で有名な Mijas には、市内から Fuengirola までの郊外電車(地下や海岸沿いを走ります。300pts.)とバス(95pts.)で行きましたが、日が長いので学校を午後3時頃出かけても十分です。

一方学校の近くですが、急な坂道を5分くらい下ると地中海の海岸にでます。海水浴場としては他に有名なところがありますが、近くの「アカシア海岸通り」には海岸沿いにレストランが並び、スペイン人の保養地になっています。外国観光客は少なく、土地のおいしい料理が楽しめそうです。

Costa del Sol(太陽の海岸)と云われる気候の温暖なこの地で、燦々たる太陽、暖かい海風、キラキラ輝く地中海を肌で感じていると、観光ガイドブックのオーバーな表現があながち過剰とも思われません。

一日の生活

食事は学校の小レストランや近くのレストランの他、Supermercado で買物をして食べますが、宿泊施設のなかでは自炊ができません。醤油も売られていますが、他の日本食は殆ど見かけません(アメリカ製のインスタントラーメンは見かけましたが)。日本から持っていく日本食に工夫が要ります。

午前の授業が終わると、2時頃までの間に見学が入ります。レストランが開くのが大体2時からですので、paella などのスペイン料理(たいてい定食で700~900pts.位)やイタリア料理などを楽しめます。もちろん sangría つきです。

昼食の後は siesta です。siesta は1日を2回に生活するための工夫でしょう。目覚めると4時半からのフラメンコや7時からのエアロビクスのレッスンが週3回ほど待っています。レッスンがないときは、近くの海岸や市内に観光や買物にでかけます。夕食はまたレストランで食べたり、買ってきたものを食べたりしますが、このように結構毎日が忙しく、この間に翌日の宿題を片付けたりすると(これが本来なすべきことでしょうか)、10時過ぎにはもう健康な眠りにつくといった毎日です。

(続く)

会員投稿

ヌエストラクラセ

相澤 百合子

当協会スペイン語教室の「しにせ」である栗山教室が、どんな内容の授業をしているのか、興味をお持ちの方がもしおられたら、土曜日午前10時30分(但し月3回)産賀センター3階の国際交流ラウンジを訪れていただきたい。ドアの所まで来て、中からもれ聞こえるアハハ、ワハハと言う笑い声と共に、師匠の言うことを口まねで弟子が繰り返しているらしい声に、『ハハーン落語教室か。とんでもない所へ来てしまったようだ。早とちりだった。それにしても落語界も変わったもんだ、女の師匠とはね!』等と思わないでほしい。もう少し落ち着いて聞いて頂ければ、まさしくスペイン語であることにお気付きになれるであろう。わが栗山由美子先生の、アンダルシアの青空のような、突き抜けた明るいお人柄にリードされて、善男善女老いも若きも一人の落ちこぼれもなく、あのむずかしいと言われる「接統法」も難なく?クリアーして、今日も楽しく授業が続けているのです。

* スペインサロン

「スペインとイスパノアメリカ - 経済の裏側」 *

96年第一回のスペインサロンが6月22日横浜開港記念会館にて開催されました。今回は神奈川大学教授石井陽一先生による「スペインとイスパノアメリカ - 経済の裏側」と題した講演会です。

経済の裏側とは、即ち「麻薬取引」のことで、かつて南米＝イスパノアメリカの大部分を支配していたスペインが、いかに関わってきたか、というお話でした。社会的な問題、ひいては世界的な麻薬の問題に繋がるという難しいテーマでしたが、スペインの一つの側面として参加者の関心を引いたようです。

この講演は先生が著された「麻薬戦争」(創樹社定価2400円)によるものです。興味のある方はご一読下さい。



講演する石井先生

はじめまして皆さんこんにちは！

当協会の活性化とともに多数の皆さんが入会されています。最近入会された方々の自己紹介です。

◆池本三郎

私の職場は横浜市緑政局中部公園緑地事務所(南区宿町1-1、蒔田公園内)です。仕事の内容は公園緑地や街路樹等の管理です。

私はその他に『樹木医』という仕事を掛け持ちしています。特に桜への関心が強かったことから下山会長とご縁が出来、昨年の桜植樹友好親善訪問旅行に同行させていただきました。会員の皆様と共にスペインに桜を咲かせたいという強い思いで取り組んでいますのでよろしくお願い致します。

◆辻 和也

1990年3月に定年退職し、何か始めようと考えていた矢先に市の広報でスペイン語講座の開設を知り、始めたのがきっかけです。

1992年から3年間神奈川大学に聴講生として通い1993年の夏にはサマランカ大学の夏季講座に女子大生9人と共に参加しました。その時の引率教授が協会顧問の石井陽一先生で、不思議な御縁だと思っています。

こうして6年余りスペイン語とスペインやラテンアメリカの歴史や文化に関心をもちながら今日に至りました。同好の士との交流、情報の入手等の面で交流協会に期待しています。

◆渡邊昭夫

スペイン語圏の"El mundo hispánico"は、Méxicoでの生活体験もあり、理屈抜きに好きな世界です。そして、スペイン語の母国スペインも魅力の国です。

まだまだこの世界のほんの一部しか知りませんが、スペイン語の勉強や地道な活動を通じて、スペインとの交流のお役に立てればと願っています。

◆大森悠爾

横浜にスペインとの交流を目的とした会ができたことをつい最近知りました。25年間スペイン料理に携わっていますので、早速入会させていただきました。

◆轟 次朗

スペインに多大な関心と興味を持っており、時折スペイン旅行を楽しんでいます。横浜スペイン交流協会に入会し、会員の皆様と協力しながら、スペインとの交流の輪を広げる一翼となっていきたいと願っています。

◆島津豪亮

南スペインの白い家、青い空、そして窓辺を飾る赤い花。そんなスペインの魅力に曳かれ、スペインを描いて十数年になります。描いても、描いてもまだ描ききれないスペイン。これからまだまだ当分の間、わたしのスペイン通いは続くことでしょう。

◆山根志保

スペイン語圏の文化(音楽、美術)が好きで、スペイン語の勉強をしたり、旅行をしたりする中で、いつも彼らの温かさに助けられ、ますます好きになります。一度写真展を見に行ったときに、この協会の説明を頂いて、スペインに桜の木を植樹するという主旨が気に入りました。

redacción ☆編集室

1996年2回目の発行です。プロでもアマでも、この業界は締め切りが守られないのが、常識なのかもしれないと、背筋が寒くなっているこの頃です。

会員の皆さまの、あたたかい原稿をお待ちしています……。 次回の発行は来年2月です!! (中間)